

駿河ほねほね団活動報告

佐々木彰央

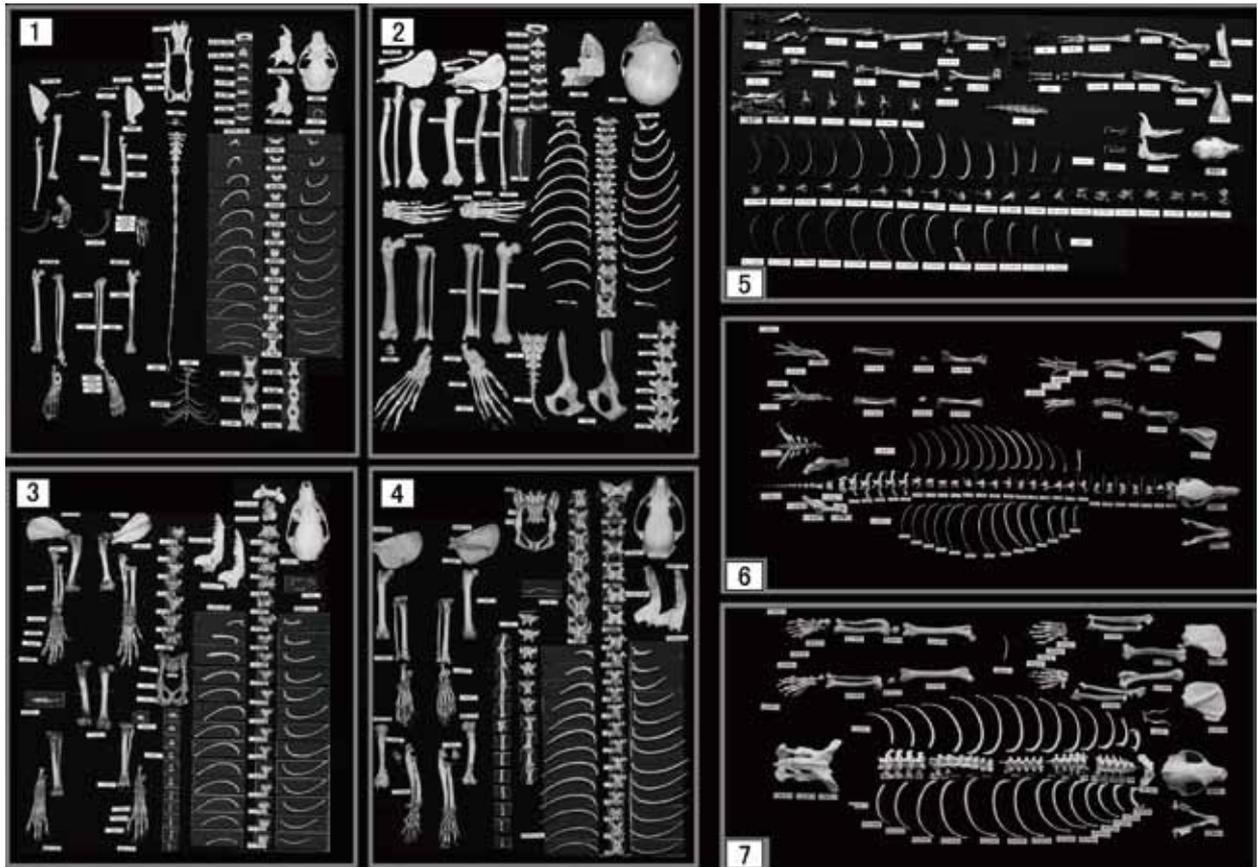


図 静岡県の哺乳類 1. ムササビ、2. ニホンザル、3. タヌキ、4. ハクビシン、5. ニホンジカ、6. イノシシ、7. ツキノワグマ

画像は駿河ほねほね団が作製した静岡県産哺乳類の骨格標本です。分解した状態で台座に固定をしました。この標本作製した目的は「骨の比較」です。

日本産哺乳類における骨の比較は、頭骨について、今泉（1970）の「日本哺乳動物図説」や阿部（2000）の「日本産哺乳類頭骨図説」によって詳しく説明がされています。しかし、肩甲骨や肋骨など、頭骨以外の骨について種ごとに網羅的に解説された文献はなく、頭骨なしでは種類を特定することが困難な状況にあります。

このような状況を打開するため、駿河ほねほね団では各種哺乳類の、全ての骨を集録した骨格標本ライブラリの構築を目指して、活動をしています。

現在までにムササビ、ニホンザル、タヌキ、ハクビシン、ニホンジカ、イノシシ、ツキノワ

グマの7種の骨格標本を完成させました。完成した標本をよく観察してみると、種類によって肋骨の本数や、各骨の形状が異なることに気付かされます。

例えば、イノシシの肋骨は片側14本、ニホンジカは13本、ニホンザルは12本と異なり、肩甲骨の形状は、イノシシやニホンジカでは幅が狭いのに対して、ツキノワグマでは幅が広い形状をしています。

これら骨の一つひとつの違いをより明確に、簡易的に比較できるようにするため、骨をデジタル画像として保存し誰でも容易に閲覧できる検索システムの構築を考えています。また、完成した標本もミニ博物館や出前講座などで積極的に活用し、教育普及に役立てていきたいと考えています。